オーナーに、こっそり教えたいこんな店
第16回

西神田「台湾食堂 台南担仔麺（タイナンターミー）」

本屋街で出会った「台湾」本場屋台の味が楽しめる魯肉飯

取材の打ち合せも終わり、次の仕事に必要な文献資料を集めなくてはならず、神保町に繰り出す。交通の便もよく、新旧入れ替わりの早い街、神保町。新書から古書まですべてが揃う。

古地図、歴史書、漫画や写真集などなど。新刊を売っている三省堂は1階から6階までのフロアに常時約35万点、120万冊にも及ぶ書籍が本好きを飲みこんでいる。

江戸時代、この界隈は大名屋敷などが建ち並び、人はあまりいなかった。しかし、幕府直轄の教育施設「昌平坂学問所」が建てられ、これがのちに大学や師範学校となると、そこに在籍する学生や教師で人出が多くなる。そして彼らが必要とする貴重な本を販売する商売が始まり、これを追っかけるかのように古書店が開かれていくようになった。

ちなみに古書店の大半は日差しを避けるために北向きに立地している。今でも靖国通りの南側（北側間口）に書店は並んでいて、北側にあまり店はない。

そんな神保町、昨今、「カレーの街」的なイメージも強いが、実は歴史あるビアホール『ランチョン』、中国料理『新世界菜館』、餃子『スキートポーヅ』、定食『キッチン南海』、古びた喫茶店『さぼうる』、半炒らーめん『伊峡』などグルメ文化も定着している。

書店で文献資料を探している合間、息抜きに

「台湾食堂 台南担仔麺（タイナンターミー）」

食堂と謳うだけあって料理のメニューは多い。フロアスタッフ、厨房スタッフともに本場台湾の言葉が飛び交っている。日本語は注文とお会計の時だけでよく聞き取れない。こんな時は言葉よりもメニューの写真で注文するのが間違いない。

終日の疲れを吹き飛ばすために、まずは台湾ビール（500円）を注文。透き通った飲みやすいビールである。

次に中華圏特有の火力で勝負する料理、A菜（エーサイ／815円）だ。胡麻油でさっと炒めたその品は鮮度抜群の瑞々しい野菜が楽しめる。

つまみに豚
円）。肉まんとに
にとろけるような
の香り漂う角煮
グしている。

ふと気づけに
客層もカップル
シチュエーション
最後に飯もの
飯（820円）だ。角
てある。これは皆
チーが入ってい
「台湾」を満喫
して店を出る。そ
料を探すのだ。

ねこやま推薦度